

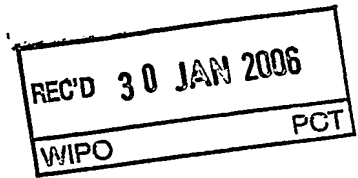
特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）

〔PCT36条及びPCT規則70〕



出願人又は代理人 の書類記号 BR-F03038-00	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/014839	国際出願日 (日.月.年) 07.10.2004	優先日 (日.月.年) 09.10.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. B60C11/03(2006.01), B60C11/04(2006.01), B60C11/11(2006.01)		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社ブリヂストン		

- この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
 - ☒ 附属書類は全部で 3 ページである。
 - ☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）
 - ☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
 - ☐ 電子媒体は全部で _____（電子媒体の種類、数を示す）。
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。
（実施細則第802号参照）
- この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
 - ☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎
 - ☐ 第II欄 優先権
 - ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 - ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
 - ☒ 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 - ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
 - ☐ 第VII欄 国際出願の不備
 - ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 04.08.2005	国際予備審査報告を作成した日 18.01.2006		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 上坊寺 宏枝	4F	9834
		電話番号 03-3581-1101 内線 3430	

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2005年4月)

BEST AVAILABLE COPY

第 I 欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願
☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))
☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条 (PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 _____ 1-5 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 _____ 3-6, 8-14, 16-19 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 1, 7, 15 _____ 項*、04.08.2005 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 _____ 1-5 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☒ 請求の範囲 第 _____ 2 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則 70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1, 3-6, 9-12, 15-19	有
	請求の範囲	7, 8, 13, 14	無
進歩性 (IS)	請求の範囲	1, 3-6, 9-12, 15-19	有
	請求の範囲	7, 8, 13, 14	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1, 3-19	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1: 日本国実用新案登録出願5-60113号(日本国実用新案登録出願公開6-50902号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を記録したCD-ROM
(ザ・グッドイヤー・タイヤ・アンド・ラバー・カンパニー),
1994.07.12, 実用新案登録請求の範囲, 【0005】,
【0034】-【0038】, 図15, 17
&US 5337816 A&EP 600265 A1

請求の範囲1、3-6、9-12、15-19に係る発明は、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

請求の範囲7、8、13、14に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1に記載されているので、新規性、進歩性を有しない。

請求の範囲

- [1] (補正後) 進行方向に対して接地面が左右幅方向に二分され、夫々の面にトレッドが配置されたトレッド構造であつて、
夫々の面の隣り合うトレッドの間隔において長ピッチと中ピッチと短ピッチを織り交ぜ、かつ、左右のトレッドを非対称に配置し、更に、左右各面のトレッドの接地面の合計面積をほぼ等しくし、且つ前記トレッドが、長ピッチを挟んで中ピッチ及び短ピッチとなるように配置されると共に、一方の面の前記長ピッチすなわちトレッドのピッチ間隔が最も大きい部分に、他方の面の前記短ピッチすなわちトレッドのピッチ間隔が最も小さい部分が対応することを特徴とする牽引力が高く低振動のトレッド構造。
- [2] (削除)
- [3] 左右の面に配置された前記トレッドが、幅方向中央で切ったときの側面視で重なり合わない配置である請求項 1 記載の牽引力が高く低振動のトレッド構造。
- [4] 前記トレッドは、長ピッチを挟んで中ピッチ及び短ピッチとなるように、且つ、一方の面に配置されるトレッドが他方の面に配置されるトレッドに対して逆ピッチとなるように配置される請求項 1 記載の牽引力が高く低振動のトレッド構造。
- [5] 短ピッチが実質的に間隔がない請求項 1 記載の牽引力が高く低振動のトレッド構造。
- [6] 各トレッドが、前記左右幅方向に対して約 30° 傾斜して配置される請求項 1 記載の牽引力が高く低振動のトレッド構造。
- [7] (補正後) トレッド構造であつて、
進行方向に対して左右幅方向に二分された接地面と、
前記接地面の左右各面に、前記左右幅方向に対して所定角度傾斜して設けられた少なくとも一つのトレッドと、を含み、
前記左右各面の前記トレッド間のピッチが周方向に沿って変動すると共に、

一方の面に配置された前記トレッドが、他方の面に配置された前記トレッドから周方向にオフセットされ、一方の面のトレッドのピッチ間隔が最も大きい部分に他方の面のトレッドのピッチ間隔が最も小さい部分に対応することを特徴とするトレッド構造。

[8] 前記左右各面の前記トレッドの接地面の合計面積がほぼ等しい請求項7記載のトレッド構造。

[9] 前記左右各面の隣り合うトレッドの間隔が、長ピッチと中ピッチと短ピッチの三種類から選択される請求項7記載のトレッド構造。

[10] 前記トレッドは、長ピッチを中ピッチを介して短ピッチで挟むパターンが周方向に繰り返されるように配置された請求項9記載のトレッド構造。

[11] 前記一方の面に配置されるトレッドが他方の面に配置されるトレッドに対して逆ピッチとなるように配置された請求項10記載のトレッド構造。

[12] 短ピッチが実質的に間隔がない請求項9記載のトレッド構造。

[13] 左右の面に配置された前記トレッドが、幅方向中央で切ったときの側面視で重なり合わない配置である請求項7記載のトレッド構造。

[14] 各トレッドが、前記左右幅方向よりも約30°傾斜して配置される請求項7記載のトレッド構造。

[15] (補正後) トレッド構造であって、

進行方向に対して左右幅方向に二分された接地面と、

前記接地面の左右各面に、前記左右幅方向に対して所定角度傾斜して設けられた複数のトレッドであって、隣り合うトレッドの間隔が長ピッチと中ピッチと短ピッチの三種類から選択されるトレッドと、を含み、

前記左右各面の前記トレッドは、前記長ピッチを前記中ピッチを介して前記短ピッチで挟むパターンが周方向に繰り返されるように配置されると共に、一方の面に配置された前記トレッドが他方の面に配置された前記トレッドから周方向にオフセットされ、一方の面の前記長ピッチすなわちトレッドのピッチ間隔が最も大きい部分に、他方の面の前記短ピッチすなわちトレッドのピッチ間隔が最も小さい部分に対応することを特徴とするトレッド構造。

- [16] 前記左右各面の前記トレッドの接地面の合計面積がほぼ等しい請求項 1 5 記載のトレッド構造。
- [17] 前記一方の面に配置されるトレッドが他方の面に配置されるトレッドに対して逆ピッチとなるように配置された請求項 1 5 記載のトレッド構造。
- [18] 左右の面に配置された前記トレッドが、幅方向中央で切ったときの側面視で重なり合わない配置である請求項 1 5 記載のトレッド構造。
- [19] 各トレッドが、前記左右幅方向よりも約 3 0° 傾斜して配置される請求項 1 5 記載のトレッド構造。